

内閣府特命担当大臣挨拶

2016年9月6日に開かれた食品安全委員会第621回会合に、食品安全担当大臣の松本純大臣が出席され、冒頭ご挨拶をいただきました。

松本大臣挨拶

松本純(写真左) 内閣府特命担当大臣(消費者及び食品安全担当)

このたび食品安全担当大臣を拝命いたしました、松本純です。食品安全委員会は、平成15年7月に発足し、これまで、約2,200件のリスク評価を終えられていると伺っています。佐藤委員長をはじめ、委員並びに専門委員、関係の皆様方の御努力に心から敬意を表したいと思います。

「食品の安全」は、私たち一人一人の命に直結する国政の重要なテーマの一つです。私自身はこれまで、国会等で医薬品の問題に取り組んできましたが、副作用の危険性を前提とする医薬品とは異なり、食品は、リスクの存在を前提にしつつも、その安全が確保されていることが必要です。今般、食品安全担当大臣に就任するに当たり、国民の健康の保護を最優先に、科学的知見に基づき食品の安全性を確保していく

ことに全力を尽くしたいと考えております。

また、食品をめぐるリスクが多様化する中、消費者一人一人がリスクを正しく理解しつつ、食品を選ぶことができるよう、科学に基づき中立公正な立場からリスク評価を行い、その結果を正確かつ分かりやすく情報提供していくことは、食品安全委員会の極めて重要な役割です。

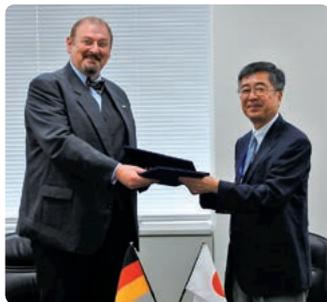
食品安全委員会が、リスク評価機関として、引き続き、その機能をいかに発揮し、厚生労働省、農林水産省、消費者庁等と連携しつつ、食品の安全性を更に向上させていくことを、強く期待しております。

※挨拶は一部を要約・抜粋。全文は国会議事録に掲載されています。



会議資料詳細 第621回食品安全委員会 <http://www.fsc.go.jp/fscis/meetingMaterial/show/kai20160906fsc>

ドイツ連邦リスク評価研究所との協力覚書を締結しました



ヘンセル所長(左)と佐藤委員長(右)

食品安全委員会は、7月25日、ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)との更なる連携強化を目指すため、協力覚書(MoC: Memorandum of Cooperation)を締結しました。食品安全委員会はこれまで、欧州食品安全機関(EFSA)、豪州・ニュージーランド食品基準機関(FSANZ)、ポ

ルトガル共和国経済食品安全庁(ASAE)及びフランス食品環境労働衛生安全庁(ANSES)とMoCを締結し、協力関係を構築してきました。

BfRとは今後、本協力覚書に基づく定期会合の開催、リスク評価の方法、個別の課題についての情報・意見交換等を行い、更なる連携強化を図ってまいります。



https://www.fsc.go.jp/iinkai/co_bfr.html

ジュニア食品安全委員会

夏休み、食品安全委員会大会議室に小学校5・6年生8名のジュニア委員が参集しました。

「子どもが見学デー」の参加プログラムとして「ジュニア食品安全委員会」を7月27日に開催しました。

佐藤委員長から「ジュニア食品安全委員会委員任命書」が各人に手渡された後、実際に委員会が行われている円卓に着席して、アンゼンキングをめざして食品の安全性に関する3択クイズを行いました。山添委員の解説で勉強し、決勝クイズまで白熱、オリンピックイヤーの今年、金・銀・銅のメダリストを決めました。

後半の意見交換の時間には、食品ロスの標語を作り、ロスをなくすための提案があったり、アレルギー・残留農薬・食品添加物についての質問を事前にまとめていたジュニア委員もいました。内容の濃い質問がたくさん出され、時間が足りないほど熱心なものでした。委員の回答では難しい用語

も含まれていましたが、真摯に回答する委員にジュニア委員もうなずいていました。意見交換は引率の保護者の方々にも好評で、自分が勉強になったという声も多数聞かれました。

参加してくださったみなさんが未来の科学者、科学の目で食の安全を守る大人になられることを期待しています。ありがとうございました。



参加者全員と委員との記念撮影

ジュニア食品安全委員会 会合結果

検索



http://www.fsc.go.jp/kids-box/junior-tokyo_280727_.html